

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成29年2月16日(2017.2.16)

【公開番号】特開2016-169446(P2016-169446A)

【公開日】平成28年9月23日(2016.9.23)

【年通号数】公開・登録公報2016-056

【出願番号】特願2015-48865(P2015-48865)

【国際特許分類】

D 2 1 H	19/10	(2006.01)
A 6 1 F	13/49	(2006.01)
A 6 1 F	13/53	(2006.01)
A 6 1 F	13/15	(2006.01)
D 2 1 H	27/00	(2006.01)
D 2 1 H	17/67	(2006.01)

【F I】

D 2 1 H	19/10	A
A 4 1 B	13/02	B
A 4 1 B	13/02	N
D 2 1 H	27/00	F
D 2 1 H	17/67	

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月11日(2017.1.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

セルロース繊維シート基材に、カチオン性抗菌剤を0.05g/m²以上、並びに、多孔質粒子、及びpH緩衝性消臭剤を含有させた、消臭用薄葉紙。

【請求項2】

前記カチオン性抗菌剤が第四級アンモニウム塩を含有する請求項1記載の消臭用薄葉紙。

【請求項3】

前記多孔質粒子が、活性炭、アルミノ珪酸塩化合物及びビニルピリジン共重合体からなる群から選ばれる少なくとも1種を含有する請求項1又は2に記載の消臭用薄葉紙。

【請求項4】

前記多孔質粒子のBET比表面積が50m²/g以上である請求項1~3のいずれか1項に記載の消臭用薄葉紙。

【請求項5】

前記多孔質粒子の平均細孔径が2nm以上50nm以下である請求項1~4のいずれか1項に記載の消臭用薄葉紙。

【請求項6】

前記pH緩衝性消臭剤は、少なくとも一つの酸解離指数pKaが5.0以上の有機酸及びその塩からなる群から選ばれる少なくとも1種からなるA剤を含む請求項1~5のいずれか1項に記載の消臭用薄葉紙。

【請求項7】

前記 pH 緩衝性消臭剤は、ポリヒドロキシアミン化合物及びその塩からなる群から選ばれる少なくとも 1 種からなる B 剤を含む請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の消臭用薄葉紙。

【請求項 8】

前記 B 剤がトリス (ヒドロキシメチル) アミノメタンを含む請求項 7 に記載の消臭用薄葉紙。

【請求項 9】

前記セルロース纖維シート基材が単層である請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の消臭用薄葉紙。

【請求項 10】

セルロース纖維と多孔質粒子とを含む懸濁液を抄紙ワイヤーを使って脱水し多孔質粒子を担持させた湿紙を形成する工程、カチオン性抗菌剤及び pH 緩衝性消臭剤を含み、かつ、pH が 5.0 以上 9.0 以下である水系塗布液を調製する工程、及び該水系塗布液を前記湿紙へ塗布する工程、を有する消臭用薄葉紙の製造方法。